０．平成 18 年度「西欧中世比較史料論研究」活動について

本書は、平成 17 年度より３カ年の予定で、科学研究費補助金の助成を受けて活動中の共同研究について、平成１７年度と１８年度の研究成果の一部をまとめたものである。

本共同研究の趣旨と活動目標については、昨年度刊行した『西欧中世比較史料論研究　平成 17 年度研究成果年次報告書』（2006 年 3 月刊行）に詳しい。ここでは、簡単に触れるにとどめたい。

本研究は、伝統的に史料学研究の中心領域であった西欧中世史を主として対象とし、近年の史料論研究の動向を整理・分析し、さらに歴史学界全体を視野に入れた問題提起を行うことを目標とする。この際、他の時代、とりわけ近世史や、日本・東洋史等を専攻する研究者との交流により、比較史的観点による諸問題の検討を深める。

具体的な活動目標としては、以下のものがある。

第一に、研究会活動を定期的に展開する。この際、専攻する時代や地域を異にする研究者を交えたシンポジウム、西欧中世史に対象を絞った個別研究報告会、欧米の研究者を招聘しての研究会の三種を、バランスを配慮しながら開催する。

第二に、研究動向の検討について、文献目録の作成と個別文献の内容の検討をすすめる。

第三に、研究会活動については、毎年年次報告書を作成して、その内容を公表する。研究動向の検討については、助成の最終年度に文献目録を中核とする報告書を作成する。

平成 18 年度は、関係文献の調査・収集につとめるとともに、都合 8 回にわたる研究会活動を実施した（うち 3 件は、19 年 3 月に実施予定）。研究会の詳細は、下記の研究会履歴のとおりであるが、それぞれは、以下のように位置づけられる。

１） 専攻する時代や地域を異にする研究者を交えたシンポジウム

第 31 回。研究会「前近代西欧の文書管理」

第 32 回。シンポジウム「記憶の管理と文書の伝来」

第 35 回。講演会「モレル教授連続講演会」「修道士とアーカイヴズ」

２） 西欧中世史に対象を絞った研究会

第 29 回。研究会「地中海世界の史料論」

第 30 回。研究会「中世王文書の比較史」

第 33 回。小シンポジウム「中世社会経済史研究と史料論」

第 34 回、36 回。研究会「モレル教授連続講演会」「オリジナル」

このうち、本報告書では、編集の時期の関係で掲載出来なかった、3 回のモレル研究会をのぞいて、実施されたすべての研究会について、報告要旨と、本書のためにあらたに書き下ろされたコメントを掲載した。さらに、昨年度開催ではあるが、時期の関係から、昨年度の報告書には掲載できなかった「説教史料論」特集を併載している。

研究会で行われた研究報告は、どれも鋭利な問題関心と作業の緻密さの両面で個別論文としての価値を有し、それぞれがしかるべき場所において、近々中に公刊されることであろう。この報告書は、各業績の速報であるとともに、各特集へのコメントを掲載することで、いわば学問の立ち上がる場についてのドキュメントという性格も合わせ持っている。その成果と価値については、読者諸兄姉のご意見、ご批判をまちたい。なお、昨年度の報告書について寄せられた意見の一つにこたえるために、今年度は、各報告要旨に文献目録を付している。

最後に、研究会活動および報告書作成について、共同事業としてご参画いただいた方々に対して、研究代表者として、あらためて御礼申し上げる。

（岡崎敦）

研究会活動履歴（場所の記載のないものは、九州大学文学部西洋史学研究室）

第29回
2006年4月29日（土）、30日（日）
共通テーマ「10-12世紀地中海世界研究における史料論の射程」
　足立孝　「地中海研究における史料論の可能性」
　西村善矢「紀元千年モンテ・アミアータ修道院の地代リストをめぐって」
　加藤玄　「豪華写本中の「カルチュレール」
　　−サン・スヴェール修道院の『ベアトゥス黙示録註解』を巡って−」
　丹下栄・岡崎敦「コメント」

第30回
2006年7月8日（土）、9日（日）
共通テーマ「1200年ごろまでのイングランドと大陸王文書の比較研究」
　森　貴子　「中世イングランドにおける王文書の展開　−ヘンリ２世期まで−」
　安部恵里香「ヘンリ２世の大陸統治　−王文書の分析を中心に−」
　梅津教孝　「メロヴィング王文書とカロリング王文書　−その形の比較を中心に−」
　岡崎　敦　「初期カペー王の文書　−統治と文書形式−」

第31回（アーカイヴズ比較史科研と共催）
2006年11月21日（火）
国文学研究資料館
共通テーマ「前近代西欧における文書管理」
　報告：堀越宏一「文書管理と王権　−フランス絶対王政期を中心に−」
　　花田洋一郎「中世後期における都市史料の伝来とその性格について」
　　徳橋　曜「イタリアの商人文書の在り方　−フィレンツェを中心に−」
　　小山啓子「近世フランス史研究の現況紹介
　　−R. Descimon、O. Poncet、J. Bottin、A. Follainの近業によせて−」

第32回（九州史学会大会全体会と共催）
2006 年 12 月 9 日（土）
九州大学法文系講義棟101番教室
共通テーマ「記憶の管理と文書の伝来」
　坂上康俊「日本古代中世文書の伝来経緯について
　　−韓国・中国・西欧との比較のための予察−」
　森平雅彦「高麗時代文書史料の伝存状況とその特徴」
　中島楽章「中国明清時代の文書管理　−徽州文書を中心として−」
　岡崎　敦「西欧中世における実務の記憶と記録　−教会を中心として−」
　渡辺浩一「コメント」
　森本芳樹「総括」

第33回（九州史学会大会西洋史部会と共催）
2006年12月10日（日）
九州大学法文系講義棟301番教室
共通テーマ「中世社会経済史研究と史料論」
　丹下栄「西欧中世初期文書における所領表現の位相」
　大宅明美「中世後期ポワチエにおけるコミューヌ権力と都市周辺地域
　　−軍事的義務分担者リストの作成と伝来に関する一考察−」
　山田雅彦「コメント」

第34回
2007 年 3 月 4 日（日）
東京大学本郷キャンパス法文１号館315号教室
「モレル（高等研究院研究指導教授、ソルボンヌ・パリ）連続講演研究会」
　ロラン・モレル「《文書オリジナル》とはなにか　−研究者の観点と中世人の観点−」

第35回
2007 年 3 月 5 日（月）
大阪大学大学院文学研究科第一会議室
「モレル（高等研究院研究指導教授、ソルボンヌ・パリ）連続講演研究会」
　ロラン・モレル「修道士とアーカイヴズ　−9−13世紀フランスの事例から」

第36回
2007 年 3 月 10 日（土）
「モレル（高等研究院研究指導教授、ソルボンヌ・パリ）連続講演研究会」
　東京大学と同じ